

第6次嵐山町総合振興計画(案)におけるパブリックコメントの実施結果について

■結果

実施期間	令和3年3月25日(木)～4月15日(木)	
意見提出	1件(1名)	
意見取扱	計画(案)を修正、加筆するもの	0件
※1項目で複数意見あり	今後の参考とするもの	1件

■意見

No.	項目(頁)	提出された意見 (抜粋)	意見に対する考え方・修正内容	意見 取扱
1	第4章第2節 2-1 2-2	<p>小中学校の適正規模配置について。先日進行中だった小中学校の統廃合が白紙に戻りました。諸々の手続きの問題等は承知致しましたが、再度、可能な限り速やかに統廃合を進めて頂きたいです。少人数学級の利点もあるのですが、子どもたちの適切な成長のためにはある程度的人数の中で社会性を身につけることも大変重要です。クラス替えもできない、できたとしても2クラスしかない。学級数に伴い教員数が少ないため部活動も限られている。近い将来菅谷小学校も1学級しか作れなくなる。これでは振興計画で掲げる「学校教育なら嵐山町」「学校が地域ブランド」には程遠いと思います。</p> <p>また、町立幼稚園についてですが、この時代に未だに2年保育しかないことは大変問題です。幼児の人数が増えたら3年保育を検討する、というのは間違っていると思います。国の幼児教育無償化が始まって数年経ちますが、未だに3年保育への移行の計画すらないのはどうしてでしょうか。3年保育を希望する家庭は、現在も続々と町外の3年保育を実施している幼稚園に入園しています。これではますます町立幼稚園への入園児が減ってしまいます。早急に3年保育の実施やこども園への移行などの対策を取らなければ嵐山町はますます少子化の一途を辿ることになるのではないのでしょうか。それまではせめてさくら教室の実施回数を増やしたり、夏季保育を実施するべきです。</p> <p>現在嵐山町の出生数は減少を続けており、昨年度は70人程度しか生ま</p>	<p>人口減少及び低出生率は町の重要な課題であると捉えています。子どもたちの豊かな未来を実現するため、保育及び教育環境の充実については未来を見据えた取組が必要であると考えています。また、学校再編等については総合振興計画審議会においても積極的に検討を進めてもらいたいとの意見をいただいております。</p> <p>いただいたご意見については今後の施策検討の参考にさせていただきます。</p>	今後の参考とするもの

No.	項目(頁)	提出された意見 (抜粋)	意見に対する考え方・修正内容	意見 取扱
		<p>れていません。2017 年以降はずっと出生数が 100 人を下回る状況が続いています。このことにもっと危機感を持つべきではないでしょうか。このままでは嵐山町の存続自体が危うくなる可能性もあります。町の税収を増やすためにも子育て世代の人口増加が必要不可欠です。そのためには嵐山町に転入したくなるほどの魅力のある小中学校、幼稚園、保育園や子育て環境が必須です。「増えたら考える」ではなく「増やすためにはどうしたらいいのか」を検討して頂きたいです。嵐山町の方々が変化を好まない、現状維持を望む町民性であることは感じています。原風景も大切ですが、どうか「今」ではなく「未来」をしっかりと見据えて 10 年後、20 年後、30 年後に輝ける町につなげて頂きたいと思えます。</p>		